

令和2年度事業報告

事業概要

シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）は、急速な少子高齢化が進展する中、地域社会を活性化の中核事業として、より一層の発展・拡充が期待されているところである。

このような中、第4次中期事業基本計画を活動指針とし、行政をはじめとする関係機関や地域社会の支援を受けながら、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもとに会員及び役職員が一体となって事業運営を強化・拡充し、地域社会の活性化に貢献する公益性の高い事業を展開してきた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が拡大し、社会活動や経済活動が制限される中、感染拡大防止対策を考慮した事業活動を余儀なくされ、定時総会の開催スタイルの変更をはじめとする各種事業活動の中止、就業の中断等の影響を受けることとなった。

コロナ禍に苦慮する中、受託事業に労働者派遣事業の実績を加えた総実績額は295,756千円にとどまり、前年度より5,700千円（前年度対比98.1%）の減となった。会員数については、入会説明会への参加人数が昨年度より1割程度減少したことに加え、病気や家庭の事情等の理由による退会者が新規入会者数を上回ったため昨年度末より43人少ない699人にとどまった。地域社会の期待に応えるためには、会員の拡大が不可欠であるため、会員増加に向けて更なる取り組みを行う必要がある。

なお、受託事業と労働者派遣事業を合わせた就業率は91.3%（会員数699人中、総合就業実人員638人）であった。

毎年3月に「安全大会」を開催し、安全適正就業の取り組み状況や個人情報の適正な取り扱い等について周知を図っていたが、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せないことから、昨年に引き続き「安全大会」を中止することとした。

平成29年度から5年間の本センターの活動指針として策定した第4次中期事業基本計画は、新型コロナウイルス感染症の拡大により国内の経済活動が停滞する中であって、派遣事業についてはすべての目標を達成することができた。

以下、令和2年度の事業実施状況についてその概要を報告する。

【第4次中期事業基本計画に対する実績】

| 項目 | 令和2年度 | | |
|--------|-----------|---------|---------|
| | 目標値 | 実績 | |
| 会員数（人） | 778 | 699 | |
| 就業率（%） | 91.5 | 91.3 | |
| 受託事業 | 受注件数（件） | 6,110 | 5,428 |
| | 契約高（千円） | 279,800 | 248,201 |
| | 就業延人員（人日） | 66,280 | 53,757 |
| 派遣事業 | 受注件数（件） | 61 | 72 |
| | 契約高（千円） | 32,000 | 47,555 |
| | 就業延人員（人日） | 8,900 | 9,211 |

1 事業実施報告

(1) 就業機会提供事業

① 雇用によらない就業機会の提供

高齢者にふさわしい地域に密着した仕事を一般家庭、民間企業及び公共団体等から有償で引き受け、会員の能力、希望等に応じて請負又は委任という形式で就業機会の提供に努めた。

受託事業については、新型コロナウイルス感染症の影響による地域イベントの中止や事業所の業務縮小等により、会員の就業機会が減少したため、契約金額は 248,201 千円（前年度対比 95.9%）円と減少した。

指定管理者として受託した駐輪場管理運営業務の実績は下記のとおりである。

ア 鳥取市営鳥取駅高架下第 1、第 2 自転車駐車場（駐輪場）の指定管理者として再指定（3 期目）され 2 年が経過した。この間、これまで培ってきたノウハウを活かしながら、利用者サービスの向上と適正な管理運営に努めた。

学生の利用者が年々減少する中、利用者の確保に努めたが、当初収入計画 14,386,000 円に対し、12,472,959 円（達成率 86.7%）と目標を達成することができなかった。

イ 提案事業であるパンク等の修理を行う「自転車有料修理サービス」は、代用自転車の貸し出しと迅速な対応がお客様に好評で 168 件、285,710 円の実績をあげることができた。

ウ 鳥取市から譲渡を受けた放置自転車の修理再生を行い、19 台を市民に提供し、会員の就業機会の拡大と資源の再利用に努めた。

エ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため窓口に飛沫感染防止用ビニールカーテンを設置するとともに、アルコール消毒薬を設置し利用者の安心、安全確保に努めた。

② 雇用による就業機会の提供

適正就業の推進及び高齢者への幅広い就業ニーズの対応を図るため、労働者派遣事業（シルバー派遣事業）及び職業紹介事業による就業機会の提供に努めた。

シルバー派遣事業は、派遣件数 72 件、派遣実人員 106 人、派遣就業延人員 9,211 人日、派遣契約金額 47,555 千円（前年度対比 111.8%）と実績を伸ばすことができた。

請負・委任の仕事が減少傾向にある一方で、労働者派遣事業の需要は、年々増ってきており、契約金額全体の落ち込みをカバーしている。

今後も、今まで以上に会員の就業能力や資質を高めていくとともに、専門的な知識や会員の経験を活かすことができる就業場所の確保に努めていくこととする。

なお、職業紹介事業については、求人、求職ともなかった。

(2) 研修・技能講習事業

シルバー事業の基本理念及び仕組み等に対する理解を深めるための研修会並びに就業に必要な技能や知識を習得するための技能講習会を開催するとともに、高齢者の健康維持、体力増進のための講座を開催した。

(3) 安全・適正就業推進事業

高齢者の就業に当たっては、安全就業を基本とし、事故防止対策に組織をあげて取り組まなければならない。高齢者が安全かつ適正に就業できるよう安全就業対策の徹底及び就業形態の適正化を図った。

- ① 会員の安全は全てに優先することであり、新型コロナウイルスの感染予防に十分な確信が得られない場合は、仕事の受注を控える等、感染予防対策に努めた。
- ② 会報「シルバーとっとり」への啓発記事の掲載や職群班会議における注意喚起等、あらゆる機会をとらえて積極的に事故防止対策に取り組み、事故の発生抑制に努めた。
- ③ 会員連絡網を活用して、剪定作業や草刈り・除草作業に就く会員に、熱中症の注意喚起等、緊急度の高い情報を速やかに伝え、安全確保を行った。
- ④ 会員の安全意識の高揚と就業中若しくは就業途上における事故防止のため、安全・適正就業部会が不定期で「安全就業の日」に安全パトロールを実施した。特に7月の「安全・適正就業強化月間」には役員も参加し、安全指導を行った。
- ⑤ 傷害事故発生時に備え「シルバー団体傷害保険」に加入しているが、全国規模でのスケールメリットを活かした団体傷害保険制度として全国シルバー人材センター事業協会が新たに創設した「シルバー人材センター全国団体傷害保険制度」に移行し、継続的かつ安定的な補償を確保した。

(4) 普及啓発事業

地域社会にシルバー事業を広くPRすることにより、シルバー事業の意義、活動内容等が正しく理解されるよう普及啓発活動を積極的に行った。

- ① 各地区の公民館や自治会の協力のもと、会員募集用パンフレットを全戸配布するとともに、鳥取市報に特集記事を掲載する等、コロナ禍の中、人と接触する啓発活動を避けながら効果的な普及啓発活動を行い、シルバー事業を広く地域にPRした。
- ② 新型コロナウイルス感染症の広がりや影響は、普及啓発活動にも大きな影響を与え、10月の全国シルバー人材センター事業普及啓発促進月間に合わせて毎年行っていた街頭でのパンフレット配布、地域イベントでの啓発活動の実施を見送ることとし、ポスターの掲示やパンフレットの常設を依頼できる施設を新たに開拓し、シルバー事業のPRに努めた。
- ③ 会報「シルバーとっとり」を年2回発行するとともに、啓発用パンフレットのリニューアルやホームページを適宜更新し、活動内容をより分かりやすく情報提供するよう努めた。

(5) 就業分野の開拓・拡大事業

就業機会の拡大のため、高齢者の希望に応じた多様な就業機会の開拓に努めた。また、地域班連絡協議会を通じて会員ひとり一人が積極的に就業開拓に取り組むことを依頼し、会員の運営参画による就業機会の拡大に努めた。

- ① 新型コロナウイルス感染症が拡大した際に発生した深刻なマスク不足に対し、女性会員が自発的に手作りの布製マスクの製作販売を開始し、地域住民に喜ばれるとともに、コロナ禍での地域の困りごとが新たな就業と結びついた。
- ② 役員が事業所等を訪問し、日頃のお礼と継続利用をお願いする「企業訪問」は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したが、今後も発注者が満足される親切、

丁寧な仕事を心掛け、新たな就業分野の開拓を推進していく。

- ③鳥取商工会議所が発行している会報紙に、事業所向け啓発用パンフレットを折込み委託し、積極的に新規就業先の拡大を図った。

(6) 福祉家事援助・子育て支援事業の推進

高齢者が長年培ってきた豊かな経験と知識を活用し、地域社会の要望を踏まえながら、地方公共団体と連携して地域密着型の事業を展開し、地域社会の活性化に貢献した。

- ① 鳥取市と連携した軽度家事援助員派遣事業及び高齢者の日常生活を支える家事援助サービスに対応することができるよう、就業経験交流会及び各種講習会を開催した。
- ② 子育て支援事業の一環として毎月1回「にこにこ広場」を開催した。この事業は若い世代の子育てを応援する目的で、平成22年からボランティアで定期開催しているものである。会員の子育ての経験や知識を活かして地域社会に貢献できる活動であったが、年々利用者が減少しているため、開催場所を変更する等して利用者増に努めた。
- ③ 「鳥取市子育て支援ネットワーク」のメンバーとして、健診ボランティアに協力するとともに、子育て支援者会議に参加し、他の登録団体と情報交換を図った。
- ④ コロナ禍で家事援助サービスの依頼が減少する中、移動の自粛により帰省がままならない親族から、妊産婦の家事育児代行や高齢の親の生活援助等の依頼があり、日常生活に不安を抱えている方々の手助けをすることができた。

(7) 社会参加活動推進事業

高齢者の社会参加活動を支援するため、市内の公共的施設等の清掃ボランティア作業を行い、地域社会に貢献するとともにシルバー事業の社会的意義の周知に努めた。

毎年、10月の普及啓発促進月間に合わせて実施している「地域班合同ボランティア作業」は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見送ったが、地域班単位での小人数でのボランティア作業は、各班で工夫しながら実施することができた。

(8) 調査研究事業

会員の就業実態及び運営状況等について発注者の評価を伺い、今後の事業運営に反映させるため、発注者満足度アンケート調査を実施し、お客様に提供するサービス内容の改善に努めた。なお、調査結果は、会報「シルバーとっとり」及びホームページで市民に公表した。また、毎月事業実績等各種データの集計及び分析を行った。

(9) 相談、情報提供事業

入会を希望する高齢者のために毎月2回入会説明会を実施するとともに、就業に関する相談、定年後の就業や社会参加を希望する高齢者のために情報を提供した。また、「用瀬取次所」を活用して、地域住民へ情報提供を行い地域活性化に努めた。

- ① 事業啓発用パンフレットをリニューアルするとともに、ホームページを適宜更新して講習会の開催計画、イベント及び本センターの活動に関する情報をわかりやすく紹介した。
- ② 地元新聞社が作成する高齢者向け情報紙でシルバー事業の活動内容を紹介するとともに、鳥取中央郵便局内にパンフレットや啓発グッズを設置し広報活動を行った。
- ③ 鳥取市及びハローワーク鳥取が主催する生涯現役促進事業の「からだ測定会&働き

方相談会」に協力団体として参加し、高齢者のニーズに合った働き方についてアドバイスする予定であったが、開催時期に「鳥取県版新型コロナ警報」の警報が東部地域を対象に発令されたため、やむなく中止となった。

(10) 組織の活性化と運営体制・財政基盤の強化

① 理事会、専門部会及び各委員会等

役員は、定款に定める総会、理事会の開催と規程等に基づく各種会議や研修会を開催し、公益社団法人として適正かつ円滑な運営に努めた。

理事は専門部会（組織部会、普及啓発部会、事業推進部会、安全・適正就業部会、女性部会）のいずれかに所属し、分野ごとに職務を遂行した。

なお、中国ブロックシルバー人材センター連合協議会、鳥取県シルバー人材センター連合会主催の研修会及び経験交流会は中止となった。

② 地域班・職群班活動

地域班連絡協議会を年5回開催するとともに、地域班会議、職群班会議を開催し、会員相互の連帯意識の高揚と就業ルールの徹底を図った。

なお、開催にあたっては3密（密閉、密集、密接）を避け、マスクを着用する等の感染予防対策を徹底した上で開催し、会員の安全確保に努めた。

③ 事務局体制の強化

事務局は、高齢者の就業意向や発注者からの仕事の依頼等、重要な情報が集まる場である。多様化する事務局運営に十分に対応するため、各種研修会や講習会にオンライン会議等で参加し、職員の資質と事務能力の向上に努めた。

④ 安定した財政運営の推進

シルバー事業の補助金は事業成果により変動する。円滑な事業運営を行うには財政基盤の強化が重要となるため、行政に財政支援を要望するとともに会員拡大と受注拡大に取り組み、自主財源の確保に努めた。